

ポプラ倶楽部への寄稿

笹川 明

2021年2月4日、私のもとに（有）キヨリデザイン研究所から、からまつ製の電波時計が送られてきました。

そして信大建築同窓会ポプラ倶楽部代表 新井浩一様から、昨秋の私の瑞宝中綬章受章記念に皆で相談した結果ですとの添書きを頂きました。

素晴らしい記念品をくださったポプラ倶楽部の皆様に深くお礼を申し上げます。思い返せば遙か昔のことになりますが、信大工学部に建築工学科が開設されたのは1982年4月で、1期生は松本にある教養課程に所属して1年間を学びました。

その同じ4月に、私は横浜国立大学工学部建築学科助教授として、横浜市常盤台の研究室で5階建て建物の設計図面を拡げていました。それは来春2年生を迎える信州大学工学部建築工学科棟の実施設計図であり、東京工業大学松井正幸教授に面会してお預かりしてきた図面でした。

建築工学科生みの親である松井先生は、来期から東工大在籍のまま信大併任となり、専任教員は私ともう1人の2人になるとのことでした。こうした人事案は来春まで公表されないため、私は1人で準備作業を進めることになりました。

まずは、建物の平面図に設備、備品類の記入から始めることにしました。

当時、文部省では建物を新設する際、設備・備品類に一定の基準を設けていました。これを「建物新営に伴う設備費」いわゆる「建新」と呼んでいました。実験機器を除く各部屋の机・椅子・書架等の什器類は、大手メーカーのカタログを取り寄せてサイズを調べ、全品を平面図に落とし込みました。部屋の設備はエアコン無しで、ガスストーブだけです。

実験設備は、構造実験室の大型万能試験機を要求するだけで、試験装置・計測装置は先送りになりました。

そして大学の用意した教育カリキュラムはひとつおりの整備されてはいるものの、全て8名の専任教員の担当となっていました。建築設計製図・法規・施工の非常勤講師枠の本省への要求は来年度喫緊の課題となります。特に、2年生の設計製図を担当する講師の人は待ったなしです。

2年生が3年後期になるころには就職活動の資料が必要になってきます。そのため、来春に全国の大手建設会社・設計事務所・設備会社・住宅メーカー等数百社に手紙を送り2年後の求人依頼をしなければなりません。

私ともう1人の専任教員に2名の事務系職員だけで竣工間もない建物の維持管理ができるだろうか。

こんな不安な気持ちを抱えながら迎えた新年度。ほころんだ桜の花びらに淡雪

がかかった美しい若里キャンパスで 2 年生と私達教職員は対面したのです。そして、什器の搬入後は、雨の日以外は毎日各部屋の窓を朝開けて、夕方閉じる作業を皆で分担して行いました。その作業を 1 年間続けるのは大変でしたが、それでも書架背面の壁にはかびがはえたのです。

今、こうして振り返ってみると、あの 1 年間は教職員皆が本当によく頑張ってくれたと心から感謝いたしております。

特に松本直司先生（現名古屋工業大学名誉教授）には深甚なる謝意を表す所でありたいです。

問わず語りに昔を思い出してしまいました。

信大での 2 3 年間は、卒業生を送り出し、社会で活躍する姿を見聞きすることが私の最大の生きがいでした。

ポプラ倶楽部の皆様、人生の最盛期を思いきり強く生きてください。そして、時あれば近況を教えてください。私の住み家の近くの飲み屋さんで。

連絡は、手紙でお願いいたします。

251-0876 神奈川県藤沢市善行坂 1 丁目 1 - 5 - 3 0 3